

現代日本語における「もちろん」のヘッジ用法 —現代語コーパスの用例より—

東泉裕子・高橋圭子

要旨

本稿では、「<主張> もちろん <異論> <逆接表現> <主張>」という談話構造で用いられる副詞「もちろん」をヘッジ用法と呼び、現代日本語のコーパスを用いてその使用実態を調査した。その結果、次の3点が明らかになった。(1) 今回の調査の範囲では「もちろん」のヘッジ用法は全用例数の3割以上を占める。(2) 「もちろん」のヘッジ用法は、書き言葉より話し言葉、対話より独話で多用される傾向にある。(3) ヘッジ用法の「もちろん」を用いた談話構造は<主張>を補強する効果をもたらすと考えられる。「もちろん」のヘッジ用法は従来、辞典の記述でも日本語教育でもほとんど取り上げられていないが、上級以上の学習者には「もちろん」のヘッジ用法を学会などの口頭発表で活用できるよう指導してはどうだろうか。

キーワード

ヘッジ用法、談話構造、「もちろん」、現代語コーパス、主張

1. はじめに

意見文の執筆においては、自分の意見とは異なる意見に対して効果的に反論することが主張を強化するうえで有効であり、上級以上の学習者に必要な指導項目であるとされている(伊集院 2010、工藤・伊集院 2013、山口 2019 など)。自分とは異なる意見の導入に用いられる形式としては「確かに」「もちろん」「無論」「なるほど」などが挙げられるが、「確かに」(伊集院 2010)以外の詳細な分析は今後の課題とされている(工藤・伊集院 2013、p. 14)。本稿ではこのうち「もちろん」に注目し、使用実態を調査する。そして、その基礎的データを踏まえ、アカデミック・ジャパニーズ(AJ)の指導について考える。

2. 調査課題および先行研究

現代日本語の「もちろん」は、『広辞苑』『大辞泉』『大辞林』などの中型国語辞典では、いずれも副詞に分類され、語義は「言うまでもなく、むろん」と記述されている⁽¹⁾。(1a)は『大辞林』の語義、(1b)・(1c)は同じく用例である⁽²⁾。

- (1) a. 議論をするまでもなく、すでに結論は決まっているという気持ちを表す。言うまでもなく。むろん。
- b. 「もちろん出かける」
- c. 「英語はもちろんのことフランス語もできる」

一方、「現代日本語書き言葉均衡コーパス(The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese: BCCWJ)」など、現代日本語のコーパスの用例を観察すると、(2)のような展開において用いられる場合が数多くあることがわかる。

- (2) 戦後の数年は国語改革の機運が最高潮に達した時期だった。もちろん、急激な改革に反対する人たちもいたが、組織的な運動はなく、逆に改革派は、戦後の改革機運を背景にして既成事実を積み上げていった。(【BCCWJ】サンプル ID: PN3d_00004、出版・新聞、産業経済新聞社(著)、産経新聞)

(2)において、書き手は第1文で戦後の国語改革について自身の見解を示している。そして、第2文前半では反対派の存在を述べ、第1文に対する異論を提示すると同時に、文頭の「もちろん」によりその異論を受け入れる姿勢を示す。しかし、「が」という逆接表現で後半につながり、異論を斥け、第1文で述べた自身の見解の補強に至っている。

このような談話展開で用いられる「もちろん」の用法を、本稿では「ヘッジ用法」と呼ぶ⁽³⁾。ヘッジ(hedge)とは「文や語が持つ意味特徴の度合いを修正する接辞、文末表現、前置き表現、慣用句など」(山岡他 2018、p. 139)の表現を指す。この定義は談話にもあてはまり、(2)のような「もちろん」の用法はヘッジの一種と考えられる。さらに、ヘッジは「日本社会では、意見の衝突や相手の気分を害するというリスクを避けるために」(近藤・小森編 2012、p. 155)用いられる傾向があると指摘されており、意見文のみならずAJ全般において、学習者が適切かつ効果的に用いることができるように指導する必要がある。

「もちろん」のヘッジ用法については、先行研究に(3)・(4)のような指摘がある。

- (3) 「もちろん給料は高いほうがいい。しかし給料さえよければいいというものでもない。」前提を述べて後文の逆接で反転させる用法である。(『現代副詞用法辞典』、p. 548)
- (4) 「勿論」は、話者の判断が叙述される際、前もってその判断以外の可能性がありうることを述べた上で、意図した判断を述べるパターンが多い。「勿論……だ(だろう)。しかし(が、ただ)……。」という展開である。つまり、「勿論」は何かの判断、主張を補強する注釈のはたらきをする。(趙 2013、p. 227)

日本語教育分野の先行研究においては、伊集院(2010)、工藤・伊集院(2013)、山口(2019)などが、日本語学習者や母語話者の意見文をデータとして、自分の意見とは異なる意見の提示とそれに対する反論・反駁の実態を分析している。また、宇佐美(2004)は、作文指導における「型」の指導の有効性と限界を指摘する中で、「予想される異論を示したうえで、その異論に対して再反論をすることで自説を強める」という「型」を取り上げている。

以上のような先行研究の指摘から、ヘッジ用法の「もちろん」は(5)のような談話構造で使用されるとまとめられる。〈主張〉は書き手ないし話し手の意見・判断、〈異論〉は

それと異なる意見・判断である⁽⁴⁾。

(5) <主張> もちろん <異論> <逆接表現> <主張>

このような談話構造を本稿では「ヘッジ構造」と呼ぶ。「ヘッジ構造」における「もちろん」は、<異論>を受け入れる姿勢を示すとともに、後続の<主張>の補強を導入する、という機能を担っている。<主張>が補強されるには、<異論>が妥当なものであり、<逆接表現>による反転が説得力に満ちたものである必要がある。

そこで、以下では「もちろん」のヘッジ用法について(5)のような「ヘッジ構造」全体を視野に入れ、その実態を調査する。そして、その基礎的データを踏まえ、AJの指導について考える。「もちろん」の語は、『日本語能力試験出題基準』では旧3級、日本語読解学習支援サイト「リーディングチュウ太」ではN4相当とされているが用法についての言及はなく、また、『基礎日本語 2』、『使い方の分かる類語例解辞典』、『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』、『日本語文型辞典』においても「もちろん」の項はあるが、ヘッジ用法については取り上げられていないためである。

3. 調査の目的と方法

本稿では、(6)に示すリサーチ・クエスチョンに基づき、現代日本語のコーパスを用いて「もちろん」の用例を収集・分析する。

- (6) a. 現代日本語における「もちろん」の中で、ヘッジ用法の使用はどの程度か。
 b. 「もちろん」のヘッジ用法に、談話タイプによる違いはあるか。
 c. 「もちろん」を用いたヘッジ構造はどのような効果をもたらすか。

調査に用いるコーパスは、国立国語研究所による現代日本語のものである。その一覧を(7)に示す。【 】は本稿で用いる略称である。用例は、コーパス検索アプリケーション「中納言」を利用し、語彙素読み「モチロン」を「短単位」検索して集めた。

- (7) a. 【BCCWJ】現代日本語書き言葉均衡コーパス (The Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese)、中納言 2.4、データバージョン 1.1
 b. 【CSJ】日本語話し言葉コーパス (Corpus of Spontaneous Japanese)、中納言 2.4.2、データバージョン 2018.01
 c. 【CEJC】日本語日常会話コーパス (Corpus of Everyday Japanese Conversation) モニター公開版、中納言 2.4.5、データバージョン 2018.12

【BCCWJ】は約1億語からなり、用例数が多いため、本稿の調査対象はコアデータのみとした。ただし、非コアデータのうち「教科書」「国会会議録」は調査対象に含めた⁽⁵⁾。なお、「国会会議録」における「もちろん」の検索結果が膨大なため、「もちろん」が含まれるデータのうち、最も新しい2005年のデータのみ分析した。【CSJ】も主にコアデータ

を対象とした。【CEJC】は2018年12月から50時間分のデータが公開されている。各コーパスの規模は同じではないが、次節の表1に、サブ・コーパスごとの検索対象語数（記号・補助記号・空白を除く）を示す⁽⁶⁾。

4. 調査結果

4.1 量的分析

表1は(7)のコーパスにおける「もちろん」の用例数と使用割合をまとめたものである。

表1 BCCWJ・CSJ・CEJCにおける「もちろん」の用例数と使用割合

コーパス	サブ・コーパス	検索対象語数	「もちろん」用例数		ヘッジ用法使用割合	
			全用例数	ヘッジ用法用例数	全用例数に対し	10万語あたり
BCCWJ	出版・新聞(コア)	308,504	19	7	37%	2.3
	出版・雑誌(コア)	202,268	56	15	27%	7.4
	出版・書籍(コア)	204,050	66	21	32%	10.3
	特定目的・白書(コア)	197,011	4	0	0%	0.0
	特定目的・知恵袋(コア)	93,932	24	5	21%	5.3
	特定目的・ブログ(コア)	92,746	19	3	16%	3.2
	特定目的・教科書	928,447	45	12	27%	1.3
	特定目的・国会会議録(2005年)	254,885	54	33	61%	12.9
	小計	2,281,843	287	96	33%	4.2
CSJ	独話・学会講演(コア)	216,594	43	30	70%	13.9
	対話・学会講演に関するインタビュー(コア)	15,554	4	0	0%	0.0
	独話・模擬講演(コア)	225,165	64	30	47%	13.3
	対話・模擬講演に関するインタビュー(コア)	14,792	6	3	50%	20.3
	課題志向対話	30,356	2	0	0%	0.0
	自由対話	48,065	8	2	25%	4.2
	小計	550,526	127	65	51%	11.8
CEJC	雑談	434,541	74	21	28%	4.8
	用談相談	122,017	31	6	19%	4.9
	会議会合	52,769	10	2	20%	3.8
	小計	609,327	115	29	25%	4.8
合計		3,441,696	529	190	36%	4.8

表1から、「もちろん」の全用例のうち3分の1以上が、(1)の辞典に記述のないヘッジ用法であることがわかる。また、「もちろん」のヘッジ用法について、談話タイプによる使用傾向の違いも見てとれる。書き言葉より話し言葉に多く、対話より独話に多い。最も使用頻度が高いのは【CSJ】「対話・模擬講演に関するインタビュー」だが、「もちろん」の全用例数6例のうち3例は同一話者によるものであり、その2例がヘッジ用法である。したがって、これは談話タイプより話し手個人の特徴と見てよいだろう。これを例外として除外すると、10万語あたりの「もちろん」のヘッジ用法が10例を越えるものは、【CSJ】「独話・学会講演」「独話・模擬講演、【BCCWJ】「出版・書籍」、「国会会議録(2005年)」である。これらのサブ・コーパスにおけるヘッジ用法の頻度の高さは、一方向的な談話では相手の反応が即座に得られるわけではないため、話し手ないし書き手の側が<異論>を自ら想定して提示し、それに反論を加えることにより<主張>の説得力を強化する必要があるためではないかと考えられる。AJ教育では、学会やゼミなどの口頭発表における「もちろん」を用いた「ヘッジ構造」の使用を導入するとよいだろう。

表2は「もちろん」を用いた「ヘッジ構造」における<逆接表現>の内訳である⁽⁷⁾。

表2 BCCWJ・CSJ・CEJCにおける「もちろん」を用いた「ヘッジ構造」中の逆接表現

コーパス	サブ・コーパス	く け (れ) ど (も)	く が	し か し (な が ら)	で も	だ が	だ け ど ・ で す け ど	と こ ろ が	け れ ど も	合計
BCCWJ	出版・新聞(コア)		4		1	2				7
	出版・雑誌(コア)		7	4		3		1		15
	出版・書籍(コア)	2	13	5					1	21
	特定目的・知恵袋(コア)		4				1			5
	特定目的・ブログ(コア)	1	2							3
	特定目的・教科書	1	7	2		1		1		12
	特定目的・国会会議録(2005年)	18	7	8						33
CSJ	独話・学会講演	8	20	2						30
	独話・模擬講演	25	2		2		1			30
	対話・模擬講演…インタビュー	3								3
	自由対話	1					1			2
CEJC	雑談	16			4		1			21
	用談相談	5					1			6
	会議会合	1			1					2
合計		81 42%	66 35%	21 11%	8 4%	6 3%	5 3%	2 1%	1 1%	190 100%

表 2 から、「もちろん」を用いた「ヘッジ構造」における<逆接表現>の約 8 割は、「～け(れ)ど(も)」および「～が」(それぞれ 42%、35%)であることがわかる。つまり、「もちろん <異論> <逆接表現> <主張>」が同一文中で述べられているケースが多い⁽⁸⁾。これは、長すぎる<異論>は説得力を持ちすぎ<主張>を弱める危険がある(伊集院 2010) ためではないかと考えられる。また、【CSJ】【CEJC】の話し言葉コーパスにおいて、「独話・学会講演」のみ「～け(れ)ど(も)」より「～が」が多用されている。改まった場面には「～が」の使用が適切であることにも注意を促す必要がある。

4.2 質的分析

「ヘッジ構造」を用いるだけで、<主張>が効果的に展開できるわけではない。<主張>が補強されるには、<異論>が妥当なものであり、<逆接表現>による反転が説得力に満ちたものである必要がある(宇佐美 2004、伊集院 2010 など)。

「もちろん」を用いた「ヘッジ構造」の用例を観察すると、<異論>の部分では<主張>の例外を示すものが少なくない。(8)は講演、(9)は書き言葉の例である⁽⁹⁾。

- (8) #縦断的な研究ではあの一ま東京がくしゅ東京にいる学習者の場合は最初き来日当時はあまり点数が良くなくてもその半年後一年後には成績が伸びているというようなあの一結果も出ておりました#(略)#人によってやっぱ勿論個人差はありますが#伸びる人は非常によく伸びるというようなこと#(略)#そのようなあの一結果あの一手順を踏んでやっていきますと#伸びる学せ学生っていうのは非常に伸びる#勿論伸びない学生もあるんですけど#まそういう状況が分かっていました# (【CSJ】講演 ID: A05F0502、開始位置: 26300、独話・学会、女、55-59 歳)
- (9) 日本でも従来の病院の概念を覆すような病院らしくない病院ができて始めている。次の特集では、具体的な取り組みを紹介したい。もちろん、すべての人が「理想の病院」と感じるわけではないだろう。だが、かなりの人が「いい」という評判の病院なのである。(【BCCWJ】サンプル ID: PM11_00322、出版・雑誌、長野宏美(著)、『サンデー毎日』2001 年 6 月 17 日号)

<主張>に例外がないことは通常あり得ない。例外があるとする<異論>は容易に想定できる。(8)の「やっぱ」は<異論>が社会通念上の共有知識に属したものであることを示している。しかし、例外があるからといって<主張>が揺らぐわけではない。むしろ、例外も含め当該の問題を包括的に見渡したうえで<主張>であることを「ヘッジ構造」は示すことができ、<主張>の説得力の補強につなげていると見ることができる。(9)においても「すべての人」ではないと例外を示している。

<異論>は例外を示すだけではない。(10)は「田舎には仕事がない」という<主張>の途中に、「水産の仕事はある」という<異論>を想定して「もちろん」それもいいと受け入れる姿勢を示すが、<逆接表現>のあと、「田舎には都会のように続けて行こうと思える仕事がない」と<主張>が精緻化されて示される。これらの例では、「ヘッジ構造」により、<主張>の明確化・精緻化という効果をもたらされていると言える。

(10) やっぱりあーのこっちで田舎でねもちろんま水産とかもいいんだけど#うんうん#あの仕事をしていくってなるとねやっぱりなかなか都会みたいでないし(【CEJC】会話 ID: C001_012、開始位置: 30510、40-44 歳、女性)

一方、「ヘッジ構造」が<主張>の補強にさほど有効に働いていない例もある。次の(11)は、「最近リアルな日常生活を扱う映画がはやっている」という<主張>に対し、「そのような映画は最近出現したものではなく昔からあった」という<異論>が挿入されているが⁽¹⁰⁾、「昔からあった」とことと「最近はやっている」とこととの関連は示されず、<主張>の強化にはつながっていない。さらに、(12)においては「数字で表せる問題とともに表せない問題も取り上げていかなきゃいけない」という<主張>の中で、「数字で表せない問題」の例として「騒音」が出され、「騒音も数字で表せる」という<異論>が示されたものの、「騒音のように数字で表せない問題も…」と繰り返されている。これは、「騒音も数字で表せる」と訂正し、数字で表せない問題の例として不安などを挙げるべきところ、形式のみ「ヘッジ構造」を用いたために論理的に破綻してしまった例と言えよう。

(11) 映画っていうのはですね#まー最近はまーリアルなものですとかね日常生活を淡々と綴ったものま勿論昔からあったんですけれどもそういった映画もはやってるようですけれども#映画っていうのはそもそも#現実社会とはねあり得ないようなこと#まー(【CSJ】講演 ID: S00M0218、開始位置: 15350、独話・模擬、男、35-39 歳)

(12) 負担といった場合には数字で表せる、施設・区域がこのぐらいの大きさだと、こういうような数字で表せる問題とともに、もちろん騒音も数字で表せますけれども、そういうような、騒音というように、言ってみれば常識的には数字で表せないような問題、それからその他の不安の問題、こういうことも十分取り上げていかなきゃいけない、(【BCCWJ】サンプル ID: OM65_00008、特定目的・国会会議録、第 162 回国会会議録、2005 年)

宇佐美 (2004)、山口 (2019) などの指摘するとおり、AJ 教育においては形式のみならず内容の論理面も指導する必要がある。

5. まとめと課題

本稿では、現代日本語のコーパスから「もちろん」を用いた「ヘッジ構造」の用例を観察した。(6)の研究・クエスチョンに基づき調査結果をまとめたものが(13)である。

- (13) a. 「もちろん」の全用例の 3 分の 1 以上がヘッジ用法である。
b. 「もちろん」のヘッジ用法は、書き言葉より話し言葉、対話より独話に多用される傾向にある。

- c. 「もちろん」を用いたヘッジ構造は<主張>を補強する効果をもたらす。ただし、用例の中には効果的でないものもある。

以上の調査結果から、AJ 教育においては「もちろん」を用いたヘッジ構造を学会・ゼミなどの口頭発表で活用できるよう指導してはどうかと考える。

今後の課題としては、データのより精密な分析、「確かに」などとの異同の解明、AJ 教育における指導内容の吟味などが挙げられる。

(東泉裕子ひがしいずみゆうこ・明治大学)

(高橋圭子たかはしけいこ・東洋大学)

注

1. 「もちろん」には述語用法(「…はもちろんである。」など)もあるが、紙幅の制限により本稿では考察の対象としない。
2. (1)の「もちろん」は原典では「一」である。以下の例文の下線は筆者らによる。
3. 「談話」とは、「相手に伝えたい内容を表す1つの言語単位で、文または発話より大きいまとまり。書かれたもの、話されたものの両者を含む」(近藤・小森編 2012、p. 145)ものである。また、(2)のような談話展開は「譲歩型」「譲歩構造」などと呼ばれることがあるが、「もちろん」については(1c)のような文型が「譲歩条件」と呼ばれている。混同を避けるため、本稿では「譲歩」の用語は用いない。
4. <逆接表現>の次の<主張>を「反論」「反駁」「再反論」などと呼ぶ先行研究もあるが、<異論>を「反論」と呼ぶものもあるなど、用語は統一されていない。混乱を避けるため、本稿では「反論」の用語は用いず、<異論>の前後に示される書き手ないし話し手の意見・判断をともに<主張>と呼ぶ。
5. 【BCCWJ】における形態論情報などのアノテーションは大半が自動付与だが、約110万語は人手により解析精度が高められ、「コアデータ」と呼ばれている。今回調査対象外とした非コアデータは、「図書館・書籍」「特定目的・ベストセラー」「特定目的・法律」「特定目的・広報紙」「特定目的・韻文」である。前二者はコアデータの「出版・書籍」でおおよその傾向を把握でき、後三者は主張や議論を主たる目的とするものではないと考えるためであるが、これらのデータの実際の分析も今後行っていく必要がある。
6. 【CEJC】の語数は下記に基づく。
<https://www2.ninjal.ac.jp/conversation/cejc-monitor/cejc-wc.html>
7. 表2では、ヘッジ用法の例が見出せなかったサブ・コーパスの行は削除した。<逆接表現>が連続して使用されている場合はそれぞれ1件として数えた。また、「ただ」「一方」「他方」は紙幅の関係上本稿では分析対象外とした。今後の検討課題とする。
8. 表2の「～け(れ)ど(も)」および「～が」は、「～けど(ね)」などの終助詞的用法も含む。その場合には、「もちろん <異論> <逆接表現>」が同一文中で述べられていることになる。
9. 【CSJ】および【CEJC】の用例における「#」は発話単位区切り記号である。
10. この<主張>は、さらに大きな談話構造の中では、「映画というものはそもそも現実ではあり得ないようなことを描くものだ」という<主張>の中に挿入された<異論>で

ある。「まー」というフィラーがヘッジとして働き「最近はリアルな日常生活を扱う映画がはやっている」という<異論>が挿入されている。

参考文献

- 伊集院郁子 (2010) 「意見文における譲歩構造の機能と位置ー『確かに』を手がかりにー」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』2, アカデミック・ジャパニーズ・グループ研究会, 101-110. <<http://academicjapanese.jp/dl/ajj/101-110.pdf>> (2020年1月31日閲覧)
- 宇佐美洋 (2004) 「意見を伝えるテクニックー説得力を生み出すための文章構成ー」『日本語学』23-10, 46-55.
- 工藤嘉名子・伊集院郁子 (2013) 「超級学習者の意見文における『譲歩』の可能性」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』39, 1-15. <<http://repository.tufs.ac.jp/bitstream/10108/73082/2/jlc39001.pdf>> (2020年1月31日閲覧)
- 国際交流基金・日本国際教育協会 (2002) 『日本語能力試験出題基準』 凡人社
- 近藤安月子・小森和子編 (2012) 『日本語教育事典』 研究社
- 趙英姫 (2013) 「近現代の漢語副詞の成立」 野村雅昭(編)『現代日本漢語の探究』 東京堂出版, 214-233.
- 山岡政紀・牧野功・小野正樹 (2018) 『新版 日本語語用論入門ーコミュニケーション理論から見た日本語ー』 明治書院
- 山口恵子 (2019) 「小論文における上級学習者の課題ー説得力を高める反論・反駁に注目してー」『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』11, 12-27. <http://academicjapanese.jp/dl/ajj/ajj11_19-27.pdf> (2020年2月20日閲覧)

辞典

- グループ・ジャマシイ (2007) 『日本語文型辞典』 くろしお出版
- 小学館辞典編集部 (1994) 『使い方の分かる類語例解辞典』 小学館
- ジャパンナレッジ Lib 『デジタル大辞泉』 <<https://japanknowledge.com/library/>> (2020年2月20日閲覧)
- 新村出 (編) (2018) 『広辞苑 第七版』 岩波書店
- 友松悦子・宮本淳・和栗雅子 (2015) 『どんなときどう使う日本語表現文型辞典』 アルク
- 飛田良文・浅田秀子 (2018) 『現代副詞用法辞典 新装版』 東京堂出版
- 森田良行 (1980) 『基礎日本語 2』 角川書店
- Weblio 国語辞典『三省堂 大辞林 第三版』 <<https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdj>> (2020年2月20日閲覧)

関連 URL

- コーパス検索アプリケーション『中納言』 <<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>> (2020年2月20日閲覧)
- 日本語読解学習支援システム『リーディングチュウ太』 <<http://language.tiu.ac.jp/>> (2020年5月20日閲覧)